

CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

グリア病態からみたアルツハイマー病

理化学研究所 脳科学総合研究センター
神経蛋白制御研究チーム 副チームリーダー

齊藤 貴志 先生

平成 29 年 5 月 19 日 (金) 午後 4 時 00 分～
第 1 研究棟 2 階大会議室

日本でも認知症患者数 500 万人時代を目前に、いまだにその解決策 (治療・予防・早期診断法の確立) が見つかっていない。この現状を打破するためには、今こそ基礎研究が重要である。アルツハイマー病 (AD) の二大病理 (アミロイド病理とタウ病理) の形成に横たわるミッシングリンクを明らかにすることは、すなわち病態形成機構の解明ひいては創薬標的の提示に他ならない。そこへ介入するために、これまでに我々が作製した AD ノックインマウスモデルを用いて解析を進めた結果、グリア病態の異常 (脳内炎症) が重要な鍵になる可能性が見出されてきた。しかしながら、病態形成におけるグリア細胞の制御機構や分子動態は疾患の複雑性もあり、十分に理解されていない。本セミナーでは、AD ノックインマウスモデルの再紹介と当該マウスから得られた新たな知見を紹介し、皆様からのフィードバックを得ることで今後の AD 研究をどう展開していくかを議論したい。